



報道関係各位

2005年10月11日

IBE とアドバンスト・メディアが、音声認識を活用した製品開発分野で提携

～映像・音声・文字情報連動の議事録システムで効果的かつ正確な情報伝達を実現～

株式会社アドバンスト・メディア(代表取締役社長:鈴木清幸、本社:東京都豊島区、以下アドバンスト・メディア)は、株式会社アイ・ビー・イー(代表取締役社長:菅原仁、本社:東京都千代田区、以下IBE)と議事録公開ソリューション事業で業務提携しました。提携第一弾として、IBEが保有する先進的なデジタル映像圧縮・管理技術のノウハウと、アドバンスト・メディアが有する世界トップレベルの音声認識技術を連携させ、各種会議・議会における映像・音声・文字情報の一元管理を行い配信するソリューションを共同開発し、平成18年4月下旬よりサービスを開始します。

両社は今回の提携により、映像議事録ソリューションに加えて、デジタル映像圧縮・管理技術と音声認識技術を連携させた、さまざまな製品・情報配信システムを共同開発・販売し、新たな市場やニーズを創出します。そして、インターネットとTVメディアの具体的な融合を実現し、21世紀のニューメディアを創造します。両社のビジネス提携により、自治体、教育機関、一般企業など議事録作成・公開を検討する全ての業界を対象に、当初5年間の営業売上目標は10億円です。

適切な情報公開が求められる議会をはじめとした各種会議での討議内容や株主総会の模様などは、本ソリューションを導入することで、WEB(ウェブ)への公開が容易になります。また映像付き議事録公開であるため討議内容は文字だけの情報より理解しやすいものになります。自治体などでこのシステムを用いた討議内容のWEB公開が一般的になることで、市民にとっての情報入手方法の選択肢が広がり、かつ容易に情報にアクセスできるようになります。このようなソリューションの導入により、従来情報のアクセスに困難をともなった聴覚障害者および高齢者向けにも情報公開が可能となり、情報格差のない社会の創造にも寄与できるものと考えます。

アドバンスト・メディアは、1997年の創業当初から音声認識システム「**AmiVoice**®」で、“声”による文章入力・音声操作などを行う各種システム・ソフトウェアを開発し、音声認識市場を創造してきました。議事録作成システムにおいて、国内トップ企業・自治体などへの豊富な導入実績と活用ノウハウを有しています。

このシステムは、名古屋大学法科大学院の模擬法廷において既に導入済みです。裁判内容を確認・レビューするうえで、その視覚効果と文字化された情報により分かりやすさと正確性を高めた点が認められています。

今回の提携で、両社が共同開発した「映像字幕配信システム」は、アドバンスト・メディアの「**AmiVoice**®」議事録作成支援システムと、IBEが提供するLive・VOD(Video On Demand:ビデオ・オン・デマンド)配信技術「Amibeエンコーダ^{※2}」を連携したものであり、音声認識連動の高度な映像議事録配信ソリューションという位置づけの製品となります。

「映像字幕配信システム」の主要機能

1)「**AmiVoice**®^{※1}」+「Amibeエンコーダ^{※2}」による議会コンテンツ作成支援機能

これまでWEB上での議会の公開は、議事録をテキストで公開、もしくは、議会映像を収録し配信という「テキストのみ」、「映像のみ」がほとんどでした。映像字幕配信システムの導入により、議会議事録と議会映像が連動したバリアフリー・コンテンツ(情報)を自動で作成する事が可能。

2) Live 及び VOD 配信機能

「AmiVoice[®]」に、議会映像のLive配信機能が合体。これによって、インターネット経由でLive・VODでの配信が可能となり、即時性をもった情報公開を実現。音声認識結果(文字情報)と収録した映像を合わせたバリアフリー・コンテンツをVOD配信することで、一般市民への正確な議事内容の理解を促進し、聴覚障害を持つ方にも視覚情報(映像・文字データ)の提供が可能。

3) キーワード検索機能

議会内容を音声認識で全て文字化し、データベース管理するため、知りたい事、視聴したい議会など必要な情報を即座にキーワードで検索することが可能。

注)解説

※1「AmiVoice[®]」

AmiVoice[®]は、自然発話(文法的に正しいとは限らない通常会話)が認識でき、個人間で異なる声の特徴をシステム運用前に登録・組み込む必要がありません。全国 1000 以上の病院施設での電子カルテ入力やコールセンターですでに採用されています。また分散型音声認識による携帯電話での音声による文字入力・操作も実現し、サービス開始を予定しています。今年開催された愛知万博では、受付ロボット(アクトロイド[®])の頭脳に使われていました。

※2「Amibe エンコーダ」

スケジュールに従い議会の映像を自動収録するサブシステムです。収録映像は、音声認識した議会議事録と連動します。また、録画予約機能を持ち、予約時に入力しておいた「日時」「議会名」などを収録と同時にデータベースに登録します。既に大学や各企業の e ラーニングシステムの映像配信に採用、活用されています。

<映像字幕配信システム画面イメージ>

©Advanced Media, Inc.

〇〇議会建設委員会第二回

©Advanced Media, Inc.



発言者一覧

- ◎委員長(丸尾末男)
- ◎委員(磯井)
- ◎委員長(丸尾末男)
- ◎委員長(丸尾末男)
- ◎維持管理課長(菅太郎)
- ◎委員(磯井)
- ◎委員(今井)
- ◎下水道管理課長(鈴木花子)
- ◎委員(今井)
- ◎下水道管理課長(鈴木花子)
- ◎委員(今井)
- ◎下水道管理課長(鈴木花子)
- ◎委員(伊田)
- ◎下水道管理課長(鈴木花子)
- ◎委員(伊田)
- ◎下水道管理課長(鈴木花子)
- ◎委員(磯井)

◎委員長 付託案件の審査に入る前に、委員の皆様へ御協議いただきたい件がございます。お千円に「申入書」の写しを配付してございますが、総務経済委員会に付託されました議案第43号 ○〇村の編入に伴う関係条例の整備等に関する条例の制定のうち、当委員会に関連する部分について、総務経済委員会の委員長から、会議規則第94条の規定に基づいて、当委員会と連合審査会を開催したいという申し入れがありました。この申し入れに対する委員の皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。

◎磯井委員 個人情報としては、この連合審査ということについては了解するわけです。それを前提に私の意見を述べおきたいというように思います。過去の〇〇の委員会審査の先例や前例を見ますと、やはり2つの委員会にまたがるような議案が出された経験は、委員長も御承知のとおりだとは思いますが、あるいはそれに伴う議案の量とかの大小、あるいは面積の大小、こういうことで大の方の主たる委員会の方でそれが審議される、そして決断するということですが、そういう委員会には報告ということでは承知しているわけですが、今回のように審議中のこと自体は、本来その性格はちょっと違って、一つは常任委員会にかけても当たり前でしょうか、当然けるべき中身ではないかというように私は考えているんです。しかし、こういう形で当局の方からも議会の方に来たと、それを受けた議長あるいは議会の方の問題もあるかというように思いますが、連合審査はそういう中で、ベストではなくベターだとは思いますが、やはりベストとしては一本一本、常任委員会にかけ常任委員会の権能を発揮させるということか、私は一番議会としてはあるべき姿だろうというように考えます。今後、こうした形での条例について、議会としても当局に対してやっぱり一本一本かけて、常任委員会を重んじるというか常任委員会の審査を大事にするという、そういう〇〇の議会の姿勢をやはり貫く必要があるというように私は考えています。そういうことを私の意見として明らかにした上で、今回のこの連合審査の開催申し入れについて、私としては賛成というよりは賛成を述べさせていただきます。これは当局にも議員にも、よく委員長の方からそのことは伝えてほしいというように、あわせてお願いしておきたいと思っております。

◎委員長 御意見も尽きたようですので、ここで、この申し入れに同意するかどうかについてお諮りいたします。議案第43号について、総務経済委員会からの連合審査開催の申し入れに同意することに御異議ございませんか。(「異議なし」と言う者あり)
御異議なしと認めます。よって、議案第43号について、総務経済委員会からの連合審査開催の申し入れに同意することに決定しました。それでは、総務経済委員会の委員長に対し、開催に同意する旨の回答をさせていただきます。なお、開催の日時につきましては、「申入書」では、本日、当委員会教後となっておりますが、総務経済委員会の委員長とも協議する必要がありますので、私に御一任願いたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)それでは、さようさせていただきます。

◎付託案件 最初に、議案第60号 工事委託協定の締結(〇〇橋ほか3こ線橋耐震補強工事)を議題とし、当局の説明を求めた。(維持管理課長 説明)当局の説明後、質疑もなく、次に、意見をお伺い。

◎磯井委員 議案そのものについての意見というよりも、ちょっと観点が違いますけれども、議案に関するということでは意見を述べおきたいんですが、この議案、議案第60号は、議案には追送で来ている議案ですね。そういう点で、今の当局からの説明は、この議案そのものの説明だから、それはそれでいいことですが、それはそれでいいと思うんですが、やっぱりこの場面にきて、この時期にきて、こういうものが、ある意味では追送として、議案として出てくる、その経過をやっぱり説明した方が、市民には納得が得られるのではないかと私は思うんです。だから工事の中身と同時に、少なくともこの委員会には追送した理由がこつ理由で、なかなか大変だったんだと、それをさらに努力してこういうような契約の中で、落橋防止、あるいは補強をしていくんだと、そういうことを言っておいた方が、市民には丁寧だし、行政の努力が伝わるとはいいかとは思いますが、そういう説明も今後を合わせていただく方がよろしいのではないかと要請しておきます。以上で意見も尽きたので、採決の結果、議案第60号については、異議なく可決すべきものと決した。次に、議案第36号 ○〇条例の制定を議題とし、当局の説明を求めた。(下水道管理課長 説明)当局の説明が終わった後、質疑をお伺い。

◎今井委員 議案第36号の説明してもらって、これは、〇〇村との編入合併をする4月1日から〇〇村という自治体なくなる、そのために〇〇条例の制定をするわけだよね。これを議案第43号の集合条例の中に入れてはまずい理由というは何ですか。

◎下水道管理課長 これは新規の制定なものですから、単独でここを出させていただきます。

◎今井委員 これは新しいもの、それから議案第43号によるものは、今まであるものの整理をするので、そういうことで分け合っているんだね。集合条例でやるのと、集合条例でやらない〇〇村との合併した条例をつくるにしても、集合条例でやるのと単独でやるのと、その区分というのが、新しくつくったものと既存のものを変えずに、訂正するなり、追加するなり、それで切ってあるんだね、集合条例に入れないか入れないか。

<株式会社アドバンスト・メディア 会社概要>

(平成 17 年 10 月 1 日現在)

社 名 : 株式会社アドバンスト・メディア
代 表 者 : 代表取締役社長 鈴木 清幸
本 社 : 東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60 48 階
U R L : <http://www.advanced-media.co.jp/>
設 立 : 1997 年 12 月 (平成 11 年 12 月)
資 本 金 : 32 億 1,847 万円
コ ー ド : 3773 (東証マザーズ)
事 業 内 容 : ・**AmiVoice**®を組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う「ソリューションサポート事業」
・「ソリューションサポート事業」で掘り起こされた市場のニーズに適合するパッケージ商品をライセンスとして提供する「ライセンス事業」
・当社自身が **AmiVoice**®を使い、企業内のユーザや一般消費者へサービス提供を行う「サービス事業」



■アドバンスト・メディアについて

アドバンスト・メディアは、独自の技術による日本語連続音声認識システム **AmiVoice**®を開発し、“声”で文章入力などができる各種ソリューションを提供してきました。**AmiVoice**®は不特定話者に対応していますので、利用者毎に声の事前学習(エンロールメント)を行うことなく、すぐに音声入力できます。特に議事録作成支援システムにおいては、北海道議会や沼津市議会、戸田市議会をはじめとした数多くの自治体の議会の議事録作成用途で採用され、その導入効果が高く評価されています。

<株式会社アイ・ビー・イー 会社概要>

(平成 17 年 10 月 1 日現在)

社 名 : 株式会社アイ・ビー・イー
代 表 者 : 代表取締役社長 菅原 仁
本 社 : 東京都千代田区二番町 3 番地 麹町スクエア
U R L : <http://www.ibe.jp/> <http://www.mpeg.co.jp/>
設 立 : 平成 10 年 11 月 9 日 (創業 平成 11 年 10 月 1 日)
資 本 金 : 9 億 9,088 万円
コ ー ド : 2347 (東証マザーズ)
事 業 内 容 : ・Video-IT システムインテグレーションの提供
Videoを中心としたリッチコンテンツによるコミュニケーションシステムの開発。
導入コンサルティング、カスタム設計・開発・納入、運営支援。
・Video-IT ソリューション・プロダクトの提供
ビジネスツールとしてターンキーで導入できるVideo-IT ソリューションの企画・開発・販売。
・Video-IT 関連サービスの提供
ビデオエンコーディング メタデータインデキシングサービス。ブロードバンド・コミュニケーションリテラシー教育。リッチコンテンツ制作教育(マクロメディア 公認トレーニングセンター運営)。コンテンツの収集から配信システムの運営までのトータルソリューションの提供



■IBE について

アイ・ビー・イーは、「Interactive Broadband Environment」のキーワードのもと、IT(情報技術)に、より表現力豊かなビデオ(映像)という表現形式を組み合わせることによって、人と人をつなぐコミュニケーションに貢献するシステムである「Video-IT ソリューション」を提供しています。映像関連技術とコンピュータ関連技術という、それぞれバックボーンが異なる二種類のテクノロジーにおいて、最先端の技術、ノウハウを持っています。これらを活用することで、お客様に「Video-IT」分野におけるシステムインテグレーション、プロダクト開発・販売、教育、その他のサービスを通じて「Video-IT のワンストップ・サービス」を提供し、新しいビジネスマーケットを創出し、社会に貢献しております。

※ **AmiVoice**®およびロゴマークは(株)アドバンスト・メディアの登録商標です。ロゴマークは(株)アイ・ビー・イーの登録商標です。記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。

＜本件に関するお問合せ先＞

＜アドバンスト・メディア株式会社＞

【一般のお問合せ】	【報道関係のお問合せ】
営業本部 議事録・字幕作成事業	経営企画部 広報・IR室
電話： 03-5958-1091	電話： 03-5949-2007
FAX： 03-5958-1033	FAX： 03-5958-1032
E-mail: kakiokoshi-info@advanced-media.co.jp	E-mail: press@advanced-media.co.jp

＜株式会社アイ・ビー・イー＞

【紙面掲載用連絡先】	【報道関係のお問合せ】
営事業本部 営業部	事業戦略室 広報・IR課
電話： 03-3556-2612	電話： 03-3556-2614
FAX： 03-3556-2622	FAX： 03-3556-2622
E-mail: mepg@mpeg.co.jp	E-mail: IBE_PR@interactive-b.com